



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

11月号—No.295

2019.10.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【深紫(こきむらさき)】黒みがかった深い紫色のこと。

濃色(こきいろ)の別名。深紫は高価な紫根によって染められた高貴な色。紫根は、初夏から夏にかけて小さな白い花をつける多年草のムラサキの根で文字通り深い紫色をしている。染料だけでなく、古くから生薬としても用いられ、歌舞伎に出てくる病人が頭に巻いた鉢巻き(病鉢巻)も紫根で染めたもの。ムラサキは今では絶滅危惧種に指定されるほど稀少なものになっている。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和元(2019)年度「公共ホール音楽活性化事業」「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボいわきセッション参加者募集 / 令和2(2020)・3(2021)年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」開催地募集のお知らせ / 令和元(2019)年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」秋田セッション ガラコンサート開催 / 令和2(2020)年度「地域創造セミナー」募集開始 / 令和元(2019)年度「リージョナルシアター事業」スタート

今月の情報..... 7

地域通信 / 特集 アートプロジェクト

今月のレポート..... 12

大阪府河内長野市 ラブリーホール
奥河内音絵巻2019 vol.5「水とじいちゃん一流れるように生きてきたー」

●「公共ホール音楽活性化事業」「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」

おんかつ、アウトリーチフォーラム事業がスタート

令和元(2019)年度
公共ホール音楽活
性化事業

公共ホール音楽活
性化アウトリーチ
フォーラム事業



地域創造では、地域においてクラシック音楽を身近なものとするため、公立ホールやアーティストと共にさまざまな事業を展開しています。その中の柱が、地域住民との交流プログラムやホールコンサートから成る「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」と、都道府県との共催により2カ年事業として実施している「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」です。いずれも秋から本格的な事業が始まりました。

●令和元(2019)年度おんかつ本格スタート～氷見市、奥出雲町

今年度のおんかつでは、2018・2019年度登録アーティスト8組が9月から来年2月まで全国12地域で事業を展開します(発展継続事業3地域を含む)。アウトリーチ事業への認識の広まりとともに、指定管理者などホールの担い手も多様化しています。今号では教育委員会が中心となった富山県氷見市と島根県奥出雲町の模様をご紹介します。

氷見市は富山湾西岸に位置する人口約4万7,000人の市です。2015年に氷見市民会館が閉館し、現在、新文化施設建設へ向けて準備を進めています。今回の事業は、多くの方々に利用いただける施設とするための土壌づくりとし

て教育委員会が9月26日～28日に実施したもので、アーバンサクソフォンカルテットが健康交流施設「いきいき元気館」附属ホールでのコンサートと、大人向けアウトリーチを行いました。

アウトリーチ事業に対する共通認識を育むことを目的とし、今回の担当である氷見市教育委員会の後藤和泉さんが特に思い入れをもって実施したのが、同僚である教育委員会職員や、氷見商工会議所の役職員を対象としたプログラムでした。会場となった教育委員会執務室では、動きながら演奏できるサクソフォン四重奏ならではの機動性を活かし、地元では誰もがなじみのある獅子舞のリズムやメロディーをアレンジして登場し、その華やかな音色や演奏する人数によって変幻自在に変わる音楽性を楽しめるプログラムを展開。市長や課内の同僚など、これまでアウトリーチを体験したことのない人々にその意義を伝える貴重な時間となりました。間近で迫力ある演奏にふれた教育総務課長の天坂正さんは、「本格的な音楽が生活の一部となる『おんかつ』の素晴らしさを実感しました」とコメント。後藤さんは、「おんかつがなければ教育委員会や商工会議所でのアクティビティはできませんでした。継続するためには実施する側の理解を深めることが不可欠で、市内での音楽アウトリー

写真左上：糸賀修平さんによるアウトリーチ(奥出雲町立三成小学校)

右上：NOK Saxophone Quartetによるアウトリーチ(大館市立花岡小学校)

左下：アーバンサクソフォンカルテットによるアウトリーチ(氷見市教育委員会)

右下：メルヴィル弦楽四重奏団によるアウトリーチ(能代市立浅内小学校)

●「公共ホール音楽活性化事業」に関する問い合わせ

芸術環境部 永田
Tel. 03-5573-4069

●「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」に関する問い合わせ

芸術環境部 渡辺
Tel. 03-5573-4185

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

チ活動がより一層拡がっていく推進力になればと思っています」と期待を滲ませていました。

奥出雲町は島根県の山間部で「ヤマタノオロチ」神話の舞台と言われているところです。奥出雲町は2005年に仁多町と横田町の合併により誕生。おんかつには教育委員会傘下の奥出雲町文化協会が子どもたちに本物の音楽体験を届けたいと応募しました。10月3日～5日にその奥出雲町を訪問したのが、旧仁多町出身のテノール歌手、糸賀修平さんです。母校の小・中・高校にアウトリーチで「凱旋」することになった糸賀さんは、並々ならぬ思い入れでこれまでのプログラムを一新。ご自身が海外で役をつかみ取った思い入れの強いオペラ『リゴレット』からアリア「女心の歌」など夢を伝える楽曲で構成。「好きなことを見つけたら、目標を立てて突き進み続けることが大切」と、自身の経験を交えて後輩たちに語りかけていました。「里帰りコンサート」と銘打って横田コミュニティセンターで行われた最終日の公演では、糸賀さんの友人や学生時代の先生なども来場。同級生で友人でもある教育長の塔村俊介さんは、「ただコンサートをやるだけではないこの事業の大切さを実感しました。少しでも子どもたちの刺激やきっかけとなるものが生まれれば」と振り返っていました。

●2年目のアウトリーチフォーラム事業 秋田セッション

アウトリーチフォーラム事業は、若手演奏家にアウトリーチプログラムを開発する機会を提供するとともに、アウトリーチおよび親しみやすいコンサートの普及を図ることを目的としており、平成30(2018)・31(2019)年度は秋田県との共催で実施しています。2年目にあたる今年度は、サクソフォン四重奏の「NOK Saxophone Quartet」と弦楽四重奏の「メルヴィル弦楽四重奏団」が派遣アーティストとなり、アウトリーチプログラムを開発するための宿泊研修を経て、9月から11月にかけて県内4市町(大館市、能代市、横手市、羽後町)での実践(小学校等でのアウトリーチとホールでのコンサート)、11月30日に2組のアーティストが顔を揃えたガラコン

サート(→P5参照)を予定しています。

現在、秋田県と秋田市は、秋田県民会館および秋田市文化会館の老朽化を受け、両施設の機能を集約した県・市連携文化施設を共同で整備しています。千秋公園に隣接し、県立美術館等の文化施設が集積する中心市街地に2021年度に開館する予定で、今回の事業は新施設の開館までの市町村とのネットワークづくりや人材育成を目的として実施されています。

今年度初めての市町村公演は、9月25日～28日に大館市と能代市で実施されました。大館市を訪問したNOK Saxophone Quartetの福田彩乃さんは、「子どもたちに対してもメンバーに対しても、相手を尊重して言葉を選ばないと自分の思いは伝わらないことを実感しました」とコメント。最終日にはほくしか鹿鳴ホール(大館市民文化会館)でコンサートが行われ、終演後、サインを求める子どもたちの列ができるほど賑わっていました。文化会館の担当者の山内知生さんは、「この事業を通して新しい人脈を築けただけでも大きな収穫。今後、県や他の市町ともタッグを組んで、単に公演のプロモーションに終始するアウトリーチではなく、アーティストと一緒にプログラムを組み上げるようなものを目指したい」と手応えを感じていました。

能代市では、メルヴィル弦楽四重奏団が小学校と特別支援学校でさまざまな角度から弦楽器の魅力伝えるアウトリーチプログラムを試みました。最終日に能代市文化会館で行われたコンサートは全編弦楽四重奏のオリジナル曲という挑戦的な内容でしたが、アウトリーチ先の子どもたちも訪れるなど、和やかな雰囲気となりました。文化会館の担当者の佐藤邦彦さんは、「アウトリーチでは振り返りを行うごとに内容がブラッシュアップされていく様子を見ることができました。コンサートでは、普段クラシックを聴く機会のない市民の皆様からも温かい声をいただき、職員冥利に尽きる公演でした」と振り返っていました。

秋田セッションの市町村公演は今後も続きます。事業に興味をお持ちの方は、ぜひ一度視察をしていただければと思います。

●令和元(2019)年度「公共ホール音楽活性化事業」参加団体(主会場/アーティスト/日程)

●富山県氷見市(氷見市いきいき元気館/アーバンサクソフォンカルテット/9月26日～28日)

●島根県奥出雲町(横田コミュニティセンター/糸賀修平/10月3日～5日)

●愛知県田原市(田原文化会館/アーバンサクソフォンカルテット/10月17日～19日)

●奈良県奈良市(なら100年会館/酒井有彩/11月7日～9日)

●福島県国見町(国見町観月台文化センター/アーバンサクソフォンカルテット/12月13日～15日)

●埼玉県吉見町(吉見町民会館(フレサよしみ)/岡田奏、田中拓也/12月19日～21日)

●静岡県御殿場市(御殿場市民会館/中野翔太、田中拓也/2020年1月20日～22日)

●千葉県酒々井町(プリミエール酒々井/泉真由×松田弦/1月23日～25日)

●東京都羽村市(羽村市生涯学習センターゆとろぎ/田中拓也、中野翔太/2月6日～8日)

*発展継続事業

●佐賀県佐賀市(佐賀市立東与賀文化ホール/岡田奏/9月17日～21日)

●北海道帯広市(帯広市民文化ホール/中野翔太、田中拓也/10月30日～11月3日)

●福岡県久留米市(久留米市城島総合文化センター インガットホール/酒井有彩/2020年2月4日～8日)

●令和元(2019)年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」実施団体(主会場/アーティスト/日程)

●秋田県大館市(ほくしか鹿鳴ホール(大館市民文化会館)/NOK Saxophone Quartet/9月25日～28日)

●秋田県能代市(能代市文化会館/メルヴィル弦楽四重奏団/9月25日～28日)

●秋田県羽後町(羽後町文化交流施設美里音/メルヴィル弦楽四重奏団/10月30日～11月2日)

●秋田県横手市(横手市ふれあいセンターかまくら館/NOK Saxophone Quartet/11月20日～23日)

財団からのお知らせ

●ステージラボいわきセッション参加申し込み方法

当財団ウェブサイトの「様式箱」→「ステージラボ」より実施要領・申込書類をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。

<http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/>
申し込み先:kensyu@jafra.or.jp

●ステージラボに関する問い合わせ 芸術環境部 三田・青井・勝田 Tel. 03-5573-4066

◎いわき芸術文化交流館アリオス

アリオスはPFI方式の施設整備を行い、2008年にオープンした直営の文化施設です。約40年にわたって市民から愛された旧平市民会館の跡地に整備した本館と、旧音楽館を改修した別館により構成。施設の正面には一体的に整備された平中央公園があり、1F・2Fから施設内に直接アプローチすることができます。

本館は、大ホール棟、交流ロビー棟、中劇場棟という3つの構造に分かれ、動線のわかりやすさや使い勝手に配慮しつつも、複合施設ならではの遮音・防振上の工夫を施しています。交流ロビー棟には、誰もがいつでも憩い、くつろげる交流スペースがふんだんに設けられているほか、市民が日常的に利用する諸室群を集中的に配置しています。

「芸術文化が持つエネルギーを通じて、いわきの「まち」と「ひと」に元気と勇気をもたらす」ための事業を、「3本の柱」(鑑賞・創造系、普及・アウトリーチ系、育成・支援系)に基づいて展開しており、2013年度には地域創造大賞(総務大臣賞)を受賞しています。

●ステージラボいわきセッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップ等体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。

令和元(2019)年度後期セッションは、いわき芸術文化交流館アリオス(福島県いわき市)にて3コースを開催します。なお、例年秋に地域創造にて実施していた「公立ホール・劇場マネージャーコース」は、いわきセッションで開講します。各コースの詳細は募集要領をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

募集締切:11月25日(月)必着

◎ステージラボいわきセッション概要

[日程]2020年2月18日(火)~21日(金)

※公立ホール・劇場マネージャーコースのみ

2月18日(火)~20日(木)

[会場]いわき芸術文化交流館アリオス(福島県いわき市平字三崎1-6)

[コース]ホール入門コース、自主事業(音楽)コース、公立ホール・劇場マネージャーコース

[定員]各20名程度

[共催]いわき市、いわき芸術文化交流館アリオス

[後援]福島県

◎ホール入門コース

【コーディネーター】

龍亜希(北九州芸術劇場プロデューサー)

【対象となる職員の目安】

公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む)において、業務経験年数1年半未満(開館準備のための組織は年数不問)の職員

【コース概要】

皆さんは演劇やダンス、音楽など芸術が持つ力をどのように感じていますか。そして、その力をそれぞれの地域でどんな風に活用していきたいと思いますか。昨今、社会のさまざまな分野でこの芸術が持つ力を活用する場面が増えていきます。その拠点とならなければならない公共ホール・劇場は何を考えればよいのか、そして何のために存在するのか、ワーク

ショップを織り交ぜながら考えていきたいと思っています。

◎自主事業(音楽)コース

【コーディネーター】

田村緑(ピアニスト)

【対象となる職員の目安】

自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2~3年程度の職員

【コース概要】

我々を取り巻く社会が刻一刻と変化する今、「芸術文化を媒体に町を生き返らせることができるか。」が今回のテーマです。4日間を通し、集う仲間と共に、音楽芸術に触れながら、そこに宿る潜在力を引き出し、音楽から得た力によって、ゼロから1を生み出す想像力・発想力を呼び起こします。そして、町の存続に欠かせない芸術文化としての観点から、地域と芸術の融合、音楽事業の新たな可能性を考えてみませんか。

◎公立ホール・劇場マネージャーコース

【コーディネーター】

篠田信子(富良野メセナ協会代表)

【対象となる職員の目安】

公共ホール・劇場において管理職程度の職責を持つ職員

【コース概要】

文化を取り巻く環境が変化している中、「地域資源」を生かすということがよく言われます。地域の公共ホール・劇場は地域が抱える課題を認識し、地域の環境や特性、人材を生かす方法を考察することが必要です。且つ事業の企画制作を通して創造性を生み、住民と芸術家とのパートナーシップを構築することが不可欠です。「地域資源」を生かしたさまざまな事業例を参考に「地域資源を生かすとは」を考察し、これからの施設運営のあり方について考えていきます。

●令和2(2020)・3(2021)年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」開催地募集のお知らせ

地域創造では「実践的な公立美術館運営能力の向上」および「公立美術館の相互交流」を図るための出前型の研修事業を行っています。この研修事業では、地域の課題意識に沿

ったカリキュラム編成を行い、地域創造の負担で講師を申請館へ派遣します。

本研修事業を令和2(2020)・3(2021)年度に地域創造と一緒に公立美術館を募集します。皆様のご応募をお待ちしております。

募集締切:2020年1月31日(金)必着

●対象となる公立美術館等

次の①の公立美術館が、②のいずれかの形態で参加することを要件とします。

①A地方公共団体が設置し、以下の団体が管理運営する公立美術館

ア 地方公共団体

イ 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体

B地方独立行政法人が設置し、管理運営する公立美術館

②参加する美術館の形態

- 都道府県単位の複数の公立美術館
- 都道府県内外のまとまった地域の複数の公立美術館

●対象となる職員

公立美術館の学芸員、一般事務職員、当該公立美術館を設置する地方公共団体の行政部局の職員等

●申請者

- 都道府県単位の公立美術館の研修事業の場合は、当該都道府県立美術館
- 都道府県内外のまとまった地域における研修

事業の場合は、地域の中核的な公立美術館

●事業内容(原則)

【開催地】

申請をする公立美術館(以下、「申請美術館」)

【参加者数】

研修内容に則した参加者数を設定する。原則として20名以上の参加者により行う。

【開催回数・開催時間等】

令和2(2020)・3(2021)年度の2年間について、内容の異なる半日程度の研修事業を、申請美術館の希望する日程において、複数回行います。(例:有識者による講義、事例紹介、グループディスカッション、実践的なワークショップ等)申請書類等を参考に、公立美術館の課題意識に沿って、申請美術館と地域創造が共同してオーダーメイド型で策定します。

●申請美術館としての業務

各研修のテーマ設定、参加者募集にかかる事務、参加者名簿の作成、司会や受付などの人員確保を含む会場の設営、配布資料の印刷などの業務(なお、参加職員の旅費は派遣した公立美術館が負担)。

●令和元(2019)年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」秋田セッション ガラコンサート開催

2・3ページで紹介しました当事業の集大成となるガラコンサートを11月30日(土)に秋田市のアトリオン(秋田県総合生活文化会館)で実施します。

秋田県内の小学校等へのアウトリーチを通じて、地域の子どもたちとの交流を図ることにより、アーティストとしての得難い経験をした彼らの奏でる音楽をぜひお楽しみください。

[日時] 2019年11月30日(土) 14:00開演(開場13:30)

[場所] アトリオン 音楽ホール

(秋田県秋田市中通2-3-8 アトリオンビル4F)

[料金] 一般前売1,000円

(全席自由、当日1,500円、学生800円)

[出演] NOK Saxophone Quartet (ノック サクソフォンカルテット)、メルヴィル弦楽四重奏団

[演奏曲目] チャイコフスキー/弦楽四重奏曲 第1番 より、小前奏人/KNOCK!!、ラヴェル=小林幸太郎/ボレロ ほか

[問い合わせ先] 秋田県観光文化スポーツ部文化振興課
Tel. 018-860-1530

●「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」

申請方法

当財団ウェブサイトの「様式箱」→「ステージラボ・アートミュージアムラボ」→「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」より、申請書をダウンロードし、必要事項を記入の上、お申し込みください。
<http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/>

◎研修項目例

- 文化政策のこれまでの流れと今後の方向
- 公立美術館のミッション策定のあり方
- 地域連携・地域に親しまれる企画のあり方
- 効果的なプロモーション(広報)
- マーケティング・創客
- 美術館と観光・インバウンド
- 公立美術館同士または民間施設との連携
- 公立美術館と他の行政分野との連携
- 美術館経営のPDCAサイクル
- 公立美術館の評価システムの具体例
- 公立美術館のショップ・レストランの具体例
- 公立美術館の組織や人を動かす手法
- その他、申請美術館が必要とする、公立美術館運営能力の向上に資するもの

◎問い合わせ

総務部 高野
Tel. 03-5573-4143

●「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」に関する問い合わせ
芸術環境部 渡辺
Tel. 03-5573-4185

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●「地域創造セミナー」実施要綱・申込書は、当財団ウェブサイト内の「地域創造セミナー」事業ページからダウンロードできます。

◎問い合わせ
芸術環境部 勝田
Tel. 03-5573-4068

●令和元(2019)年度リージョナルシアター事業

- ◎参加団体
- NPO法人能代市芸術文化協会(能代市文化会館)
 - 株式会社けいはんな(京都府立けいはんなホール)
 - (公財)松山市文化・スポーツ振興財団(松山市総合コミュニティセンター)
 - 九重町教育委員会(九重文化センター)
 - (公財)門川ふるさと文化財団(門川町総合文化会館)

- ◎派遣アーティスト
- 多田淳之介(東京デスロック主宰、演出家)
 - 田上豊(田上バル主宰、劇作家・演出家)
 - 有門正太郎(有門正太郎プレゼンツ主宰、演出家・俳優)
 - 福田修志(F's Company代表、劇作家・演出家)
 - ごまのはえ(ニットキャップシアター代表、劇作家・演出家・俳優)

◎アドバイザー

- 内藤裕敬(南河内万歳一座座長、劇作家・演出家)
- 岩崎正裕(劇団太陽族代表、劇作家・演出家)

◎問い合わせ
芸術環境部 藤原
Tel. 03-5573-4124

●令和2(2020)年度「地域創造セミナー」募集開始

文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりおよび芸術文化関係者の広域的な連携強化を目的として、都道府県が主催する研修会に対し、地域創造が講師を派遣する新たな事業「地域創造セミナー」の募集を開始します。

研修会の主な対象は都道府県内の市町村職員や公立文化施設職員等をはじめとする芸術文化関係者で、講演のテーマや講師は、申請する都道府県の課題や今後取り組みたい施策などをもとに地域創造と協議の上で決定し、テーマにふさわしい有識者やアーティスト等を地域創造が派遣します。研修会では、講師による講演のほか、テーマや要望に応じて講師によるワークショップを実施する事も可能です。

令和2年度の事業実施に先立ち、本年度は

モデル事業として福井、徳島、愛媛の3県でセミナーが開催されました。このうち福井県で開催されたセミナーでは、BEPPU PROJECT(大分県別府市を拠点とするアートNPO)代表の山出淳也氏を招き、山出氏が取り組んでこられたアートによる地域おこしの事例を紹介いただきました。講演後には会場に集まった県内の市町村や公立文化ホールの職員から次々と質疑の手が上がるなど、まちづくりの斬新なアプローチに参加者の関心を集めていました。

地域によって異なるさまざまな課題に対し、文化・芸術の視点からどう取り組むべきかを有識者や関係者から伺いながら、地域の関係者が一体となって考える絶好の機会となります。セミナーに合わせて、市町村等で活用いただける地域創造の事業の紹介も行います。ぜひ活用ください。

募集締切：12月25日(水) 必着

●令和元(2019)年度「リージョナルシアター事業」がスタート

演出家等を公共ホールに派遣し、ホール職員と共にアウトリーチやワークショップを企画・実施するリージョナルシアター事業。今年度は、秋田県能代市、京都府、愛媛県松山市、大分県九重町、宮崎県門川町の5地域で開催します。この事業では、演劇の幅広い可能性についてホール職員の理解を深め、演劇による地域活性化の試みを後押しすることを目的としています。街の規模もホールのミッションもさまざまな中で、5名の派遣アーティストが各々の担当地域でホール職員と対話を重ねながら検討した企画が、順次スタートしました。

京都府(派遣アーティスト：ごまのはえ)では、町の昔の写真から想像した短い台本をつくり、その台本に民族楽器や手づくり楽器で効果音を付けた朗読劇をつくるワークショップを実施しました。朗読劇の発表では、子どもたちが真剣に効果音を付ける姿や、乳児をあやしなが朗読に参加したお母さんの姿が大変印象的でした。発表会後に実施した座談会では、発表した子どもに「上手だったね」と声が掛かったり、昔のことに思いを馳せるお客さんの言葉に、事業担当の伊藤佐和子さんから「まさにこの地域で埋もれていたことが、本事業を通して舞い上がった」とコメントがありました。

また九重町(派遣アーティスト：福田修志)では、小学校でのアウトリーチを2校で実施。そのうち1校は全校生徒が25人という小規模校だったため、全員で一緒にワークショップを行い、最終的には3つの班に分かれて物語をつくりました。先生からは「普段の授業とは違う児童の様子が見られて、こちらにも発見がありました」との声もありました。事業担当の畑山伸恵さんは今後の目標として、「町内すべての子どもがアウトリーチを受けられる機会を設けたい」と話してくれました。

今後も引き続き3地域での実施が控えています。興味のある方はぜひ視察していただければと思います。



昔の写真について地域の方からお話を聞く様子(京都府、派遣アーティスト：ごまのはえ(右から3人目))

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 児島・三田

●2020年1月号情報締切
11月29日(金)

●2020年1月号掲載対象情報
2020年1月～3月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。
◎公共ホール等の求人情報
◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報
掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.jafra.or.jp/>

クリスマス・新春企画 情報 求む!

12月号(11月25日発行予定)では恒例の「クリスマス・新春企画特集」を予定しています。下記までどしどし情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4183
Fax. 03-5573-4060
letter@jafra.or.jp
締め切り:10月31日(木)

台風19号による被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

皆様の生活が1日も早く平穏に復することをお祈り申し上げます。また、対応に尽力されている地方公共団体および公立文化施設の皆様におかれましても、1日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。なお、掲載イベントの開催内容や日程について一部変更の可能性がございます。最新の情報は主催者へお問い合わせください。

北海道・東北

●札幌市

北海道立三岸好太郎美術館
〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西15丁目
Tel. 011-644-8901 佐藤宏一郎
<http://www.dokyojoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/mkb/>

mima-no-me #みまのめ VOL.5

31歳の若さで急逝した三岸好太郎の業績にちなみ、平成30年度からスタートした北海道ゆかりの優れた若い作家を紹介するシリーズ企画。シリーズ5回目の今回は伝統的な技法を用いながら現代的な視点で新しい造形を追求する片野莉乃(日本画)、福田亨(工芸)、田中咲(油彩)、佐々木育弥(写真)の4人の若手作家を紹介する。

[日程]9月14日～12月1日

[会場]北海道立三岸好太郎美術館

関東

●茨城県笠間市

茨城県陶芸美術館
〒309-1611 笠間市笠間2345
Tel. 0296-70-0011 安田和人
<http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

いきもの狂騒曲

—陶芸フィギュアの現在—

モチーフの生き物がもつ魅力と陶芸ならではの表現の魅力とを、いかに融合させるかという課題に向き合うことで生まれた陶芸フィギュアは、単純なリアルさや可愛らしさだけではない強烈な存在感を放つ。本展では、陶芸作家17名に、ガラス、革工芸、金工の作家4名を加えた21名の作品により、現在盛り上がりを見せている陶芸におけるフィギュアの魅力を紹介します。

[日程]9月7日～11月24日

[会場]茨城県陶芸美術館



堀貴春「White Trichogomphus(トリコグムフ)」(2018年/個人蔵)

●栃木県小山市

小山市立車屋美術館
〒329-0214 小山市乙女3-10-34
Tel. 0285-41-0968 中尾英恵
<https://www.city.oyama.tochigi.jp/site/kurumayamuseum/>

祝 小山市制65周年、開館10周年「呉夏枝 手にたくす、糸へたくす」

染織を学び、糸を織る、編む、結ぶ技法を使って「沈黙の記憶」を浮かび上がらせる作品を制作してきた作家による、国内では初となる美術館での個展。作家のルーツである韓国の民族衣装の写真作品から近年の作品までを通して、記憶の再構築や記憶の継承を探求する試みを行ってきたこれまでの活動を包括的に紹介する。

[日程]10月12日～12月15日

[会場]小山市立車屋美術館

●群馬県みどり市

富弘美術館
〒376-0302 みどり市東町草木86

Tel. 0277-95-6333 桑原みさ子
<https://www.city.midori.gunma.jp/tomihiro/>

かあちゃん

頸髄損傷から四肢の自由を失いながらも、口にくわえた筆で温

かみあふれる作品を生み出している詩画家・星野富弘による母への思いがこもった作品を紹介。星野の母・知野さんは富弘が入院中の9年間、献身的に看護。退院後は畑仕事などをしながら穏やかに暮らし、昨年97歳で亡くなった。母親をテーマにした企画展は開館28年目にして今回が初めて。

[日程]9月3日～11月24日

[会場]富弘美術館

●埼玉県川口市

川口市教育委員会
〒332-0033 川口市並木元町1-76

Tel. 048-253-0222 三井知行
<http://www.atlia.jp/>

第14回アーティスト・イン・スクール タムラサトル(現代美術家)×川口市立前川東小学校6年生89人

川口市の小中学校にアーティストを派遣し、図工・美術の特別授業を実施。成果発表として、制作作品の展示を中心に、授業の様子を紹介する。毎年1校1学年を対象に実施され、1～2カ月間の授業の中で生まれるアーティストとの深い交流により、想像力・創造力・コミュニケーション力を育む。期間中はアーティストの作品展も開催。

[日程]11月2日～12月8日

[会場]川口市立アートギャラリー・アトリア

●埼玉県寄居町

埼玉県立川の博物館
〒369-1217 大里郡寄居町小園39

Tel. 048-581-7333 大久根茂

<https://www.river-museum.jp/>

水車は日本の原風景だ

博物館の敷地内にある木造の大水車が2017年からの改修工事を経て、直径24.2mの日本一の大きさで復活。それを記念し、水田の揚水や製粉・精米等の原動力として活躍してきた水車について、模型を利用した構造や機能の解説が行われるほか、水車にまつわる日本画や写真を展示。古の生活の知恵である水車を通して“日本の原風景”を感じることができる。

[日程] 9月21日～11月24日
[会場] 埼玉県立川の博物館

※台風19号の影響により臨時休館中です(10月15日現在)。最新の情報は施設へお問い合わせください。

●千葉市

千葉市美術館
〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
Tel. 043-221-2311 畑井恵
<http://www.ccma-net.jp/>

目 非常にはっきりとわからない

空間を大規模に変容させる表現などで国内外でも注目を集める現代アートチーム「目」による美術館における初の大規模個展。展示物に加え、鑑賞者の動きや気づきを含む美術館の施設全体の状況をインスタレーション作品として展開。ゲストアーティストによるライブパフォーマンスや、関係者全員によるクロージングトークも実施される。

[日程] 11月2日～12月28日
[会場] 千葉市美術館

●東京都大田区

大田区立龍子記念館
〒143-0024 大田区中央4-2-1
Tel. 03-3772-0680 木村拓也
<https://www.ota-bunka.or.jp/facilities/ryushi/tabid/218/Default.aspx>

青龍社創立90年特別展 「龍子と同時代の画家たち」

近代日本画の巨匠と称される川端龍子が創立した美術団体・青龍社の創立90年を記念した特別展。草創期を支えた安西啓明や小島鼎子、福田豊四郎、落合朗風、戦後注目を集めた横山操のほか、同時代に活躍した横山大観や川合玉堂、堂本印象らの作品を展示し、青龍社が目指したものを再考する。

[日程] 10月26日～12月1日
[会場] 大田区立龍子記念館

●東京都武蔵野市

吉祥寺シアター
〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町1-33-22
Tel. 0422-22-0911 大川智史
http://www.musashino-culture.or.jp/k_theatre/

吉祥寺ダンスリライトvol.1 —「踊る身体」が書き換えるダンスの未来—

コンテンポラリーダンス界に刺激を与えて変化を生み出していきたいという思いを「リライト(上書き)」に込めたダンスショーケース。総合ディレクターに振付家・ダンサーの北尾亘を迎え、将来を担う若手ダンサー4組が「踊る身体」にこだわったダンスを披露。それぞれのダンサーが広い劇場空間をどのように使うかも見どころ。

[日程] 11月15日～17日
[会場] 吉祥寺シアター

●横浜市

かながわ伝統芸能祭実行委員会(事務局: 神奈川県文化課)
〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1

Tel. 045-263-4475 藤岡審也
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/yi4/dentougeinou/retrobeat2019.html>

かながわこども民俗芸能フェスティバル～れとろびーと2019～

民俗芸能や地域の伝統芸能の保存・継承に取り組む子どもた

ちの晴れ舞台。27回目の開催となる今回は、県内に伝わる伝統的な人形芝居に取り組み小学生から大学生までの6団体が、日頃の活動の成果を披露する。チームワークで人形にいのちを吹き込む三人遣い、人形と遣い手の動きが一体となった一人遣いの2種の人形芝居を上演。

[日程] 11月4日
[会場] 神奈川県立青少年センター

北陸・中部

●石川県金沢市

石川県音楽文化振興事業団
〒920-0856 金沢市昭和町20-1
Tel. 076-232-8111 宮本泰
<https://ongakudo.jp/>

洋邦コラボレーション・コンサート コラージュ～能による3つの情景～

2018年より始まった洋楽・邦楽コラボレーション企画の2回目。金沢の地に深く根差す能を異ジャンルの芸術分野とコラージュのように組み合わせ構成する。能居囃子と映像による『松風』、能舞とピアノ独奏による『パッハ』、『サラバンド』、能とモダンバレエによる『ムソルグスキー(展覧会の絵)』という3演目を通じて、能と異世界の融合から新たな舞台芸術の可能性を探る。

[日程] 11月13日
[会場] 石川県立音楽堂

●長野県安曇野市、上田市、中野市、茅野市

長野県文化振興事業団
〒390-0311 松本市水汲69-2 (キッセイ文化ホール内)
Tel. 0263-34-7100 伊藤羊子
<https://shinbism.shinshu-to-asobo.net/>

長野県芸術監督団事業 シンビズム3

長野県はミュージアムの数は全国一だが1館1人学芸員体制の美術館も多いことから、美術史

家の故・本江邦夫が監督となり、館や学芸員のネットワーク構築などを目的に開始された共同企画展覧会。過去2回の展覧会は現存作家に焦点を当てたが、今回は物故作家も含め長野県の戦後の美術史をたどる上で重要な作家を紹介する。

[日程・会場] I期: 9月21日～10月14日/安曇野高橋節郎記念美術館、II期: 10月12日～11月10日/上田市立美術館、III期: 11月9日～24日/中野市一本木公園展示館ほか、IV期: 2020年1月19日～2月9日/茅野市美術館

●岐阜県多治見市

パロー文化ホール
〒507-0039 多治見市十九田町2-8
Tel. 0752-23-2600 澤田恵未
<http://www.tajimi-bunka.or.jp/bunka/>

井草聖二×松井祐貴 ギターライブ

同館が2004年より取り組む芸術普及プログラム「おんがくのたね」で、小学校アウトリーチ活動を行う井草聖二と国内外で活躍する松井祐貴を迎え、近年アジアで注目を集めるソロギターの世界を紹介。1本のアコースティックギターでメロディー、ベース、ドラムとすべてのパートを表現する多様な技法の解説とともに、親しみやすい曲やオリジナル曲を披露する。

[日程] 11月8日
[会場] パロー文化ホール(多治見市文化会館)

●浜松市

浜松市美術館
〒430-0947 浜松市中区松城町100-1
Tel. 053-454-6801 袴田知恵
<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/artmuse/>

—奇跡の写真絵画— スーパーリアルワールド展

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

画壇と産業界各々の分野で活躍する浜松出身の画家・石黒賢一郎と斎藤雅緒による現実のように精巧な写実表現約180点を展示。デジタル技術の普及で気軽に“リアル”を体感できるこの時代に、人間の描き出すリアルな描写と技巧を直に見ることができる。
[日程]9月28日～12月15日
[会場]浜松市美術館

●静岡市

静岡市東海道広重美術館
〒421-3103 静岡市清水区由比297-1
Tel. 054-375-4454 山口拓海
<http://tokaido-hiroshige.jp/>

由比本陣公園開館25周年記念 今昔東海道ステーション

江戸時代を代表する浮世絵師・歌川広重が描いた東海道の浮世絵版画とともに、江戸時代の宿駅と明治以降に開設されていく鉄道の駅を紹介する展覧会。会期を3パートに分け、広重が手がけた東海道五十三次の代表的な3シリーズをパートごとに全点展示するほか、東海道と東海道本線のルートの違い、東海道本線敷設までの歴史を紹介する展示も楽しめる。

[日程]8月20日～11月24日
[会場]静岡市東海道広重美術館

●愛知県豊橋市

豊橋文化振興財団
〒440-0887 豊橋市西小田原町123
Tel. 0532-39-8810 石田晶子
<https://www.toyohashi-at.jp/>

高校生と創る演劇『転校生』

公募によるオーディションで選ばれた現役高校生が、劇場やプロの演劇スタッフと共に演劇を制作するシリーズ第6弾。今回は青年団の平田オリザ作『転校生』を、地元出身の山本タカの演出により上演する。高校生は音響・照明や広報などのスタッ

フも募集され、8月にさまざまなワークショップを実施。その後稽古を経て本公演を迎える。
[日程]11月2日～4日
[会場]穂の国とよはし芸術劇場 PLAT

●愛知県瀬戸市

瀬戸蔵ミュージアム
〒489-0813 瀬戸市蔵所町1-1
Tel. 0561-97-1190 武藤忠司
<http://www.city.seto.aichi.jp/docs/2011031500092/>

猫のポット展

瀬戸市で毎年行われる「来る福招き猫まつり」の開催時期に合わせ、かつて瀬戸や常滑、四日市で生産された作品をはじめ世界の猫ティーポットを紹介する。輸出向けに生産されていたために国内で見るとは珍しい約140点を、デザインや年代、地域ごとに展示。お茶を淹れる機能と、豊かな表情やユニークな造形を兼ね備えた多彩なデザインが見どころ。

[日程]8月31日～11月17日
[会場]瀬戸蔵ミュージアム

近畿

●三重県四日市市

四日市市文化まちづくり財団
〒510-0075 四日市市安島2-5-3
Tel. 059-354-4501 田中峻
<https://yonbun.com/>

ミュージカル『あした大空』

四日市市と東員町が初めて共同で開催する市民ミュージカル公演。日本のライト兄弟と呼ばれた四日市出身の飛行家「玉井兄弟」を題材にしたオリジナル作品で、四日市市を拠点に活動するミュージカル劇団「演劇集団ローカルスーパースターズ」と、近隣市町からオーディションで選ばれた高校生から40歳代までの8人が共演する。

[日程]11月23日、24日、30日、

12月1日
[会場]四日市市文化会館、東員町総合文化センター

●京都市

京都芸術センター
〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
Tel. 075-213-1000 水野慎子
<https://www.kac.or.jp/>

Kyo×Kyo Today vol.10 「音楽の国『チェコ』の情景～ チェコの作曲家マルティヌーと ドヴォルザーク～」

京都芸術センターと京都市交響楽団のコラボレーションによる人気企画の第10弾。奏者の息遣いが聞こえるほど近い距離で音楽を楽しめる。今回はチェコの音楽をテーマに、チェコを代表する作曲家ドヴォルザークはもちろん、没後60年を迎える作曲家マルティヌーの曲を、京都ラビッシュ アンサンブルほかの演奏で楽しめる。

[日程]11月26日
[会場]京都芸術センター

中国・四国

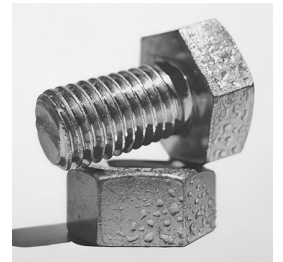
●岡山県瀬戸内市

瀬戸内市立美術館
〒701-4302 瀬戸内市牛窓町牛窓4911(瀬戸内市役所牛窓庁舎4F)
Tel. 0869-34-3130 有吉美里
<http://www.city.setouchi.lg.jp/museum/>

— 驚愕 — 超絶の世界展

明治時代の工芸品を彷彿とさせる、およそ人間の技とは思えないほどに精緻な超絶技巧の現代作品を展示する。写真と見紛うような緻密でリアルな鉛筆画(大森浩平)、精巧な細工・装飾が施された陶芸の作品(加藤直樹ほか)や切り絵(辻)と、多様なジャンルの作家7名による、凄まじい集中力から生み出された、驚異的な技術の世界が楽しめる。

[日程]9月14日～11月10日
[会場]瀬戸内市立美術館



大森浩平「UNTITLED' 17」(2017年、ケント紙・鉛筆)

●徳島県徳島市

徳島県文化振興財団
〒770-0835 徳島市藍場町2-14
Tel. 088-622-8121 清水公美子
<http://www.kyoubun.or.jp/>

藍場町サロンコンサート2019

クラシックやジャズ、邦楽にフォーカスし、各ジャンルで活躍する新進気鋭のアーティストによる一夜限りのスペシャルプログラム。11月19日の公演はピアノ・トリオが、12月2日の公演はサクスクワルテットが出演。12月20日の公演では津軽三味線とピアノのコラボレーションを披露する。いずれの公演もウェルカムドリンク付き。
[日程]11月19日、12月2日、20日
[会場]あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

●香川県高松市

香川県立ミュージアム
〒760-0030 高松市玉藻町5-5
Tel. 087-822-0247 佐藤竜馬
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmu-seum/>

日本建築の自画像

探究者たちのもの語り

「日本建築」という概念の多様性を、瀬戸内地域に残る建築を素材にしながら、地域性や時代背景を通じて紹介する展覧会。“日本的”をめぐるイメージ、造形、民家へのまなごし等のテーマについて、設計図や写真、模型などを通じて展示。瀬戸内や沖縄

といった地域などから見える“日本”のありようも検討し、改めて日本建築とは何かを問いかける。
[日程] 9月21日～12月15日
[会場] 香川県立ミュージアム

九州・沖縄

●福岡市

福岡アジア美術館

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7・8F

Tel. 092-263-1100 趙純恵

<https://faam.city.fukuoka.lg.jp/>

開館20周年記念展

「アジア美術、100年の旅」

アジアの近現代美術を系統的に収集し紹介してきた同館が20周年を迎え、アジア美術の100年間を振り返る特別展を開催。約3,000点のコレクションより、アジアの地域性が色濃く表れる351点を地域別に公開するほか、開館当初より取り組むレジデンス事業で制作されたアジア作家の作品を紹介し、アジアとの交流拠点としての歩みと役割を見つめ直す。

[日程] 10月5日～11月26日

[会場] 福岡アジア美術館



「アジア美術、100年の旅」展示の様子

●佐賀県佐賀市

佐賀市文化振興財団

〒849-0923 佐賀市日の出1-21-10 (佐賀市文化会館内)

Tel. 0952-32-3000 福地浩二

<http://www.shinpoo.jp/>

第7回佐賀市民芸術祭

九州管楽合奏団クラシック&ポップスコンサート

九州で唯一のプロ吹奏楽団・九

州管楽合奏団の佐賀初公演。クラシックステージに加え、ポップスステージでは映画音楽など親しみやすい音楽も多く演奏される。公開リハーサルでは本番直前の緊張感の中で音楽がつくり上げられる様子が見られたり、市内の学校をモデルに合奏団メンバーが熱く指導する公開クリニックもあり、さまざまな角度から楽しめる企画となっている。

[日程] 11月10日

[会場] 佐賀市文化会館

●大分県豊後大野市

エイトピアおおの(豊後大野市総合文化センター)

〒879-7125 豊後大野市三重町内田878

Tel. 0974-22-8000 米良悠希

<https://bungoohno-bunka.jp/>

ぶんごおおの MUSIC FESTA 令和元年

BLACK BOTTOM BRASS BANDによる音楽ワークショップとコンサート。初心者、スタンダード、アドリブソロの3コースにレベル分けされたワークショップは、その楽しさとバンドメンバーの人柄に魅了され、毎年参加する常連もいるほど。コンサートにはワークショップ参加者のほか、地元の吹奏楽部やジャズバンド、コーラスグループも出演し、さまざまな音楽を楽しむことができる。

[日程] 11月17日

[会場] エイトピアおおの(豊後大野市総合文化センター)

講座・シンポジウム等

文化芸術立国の実現に向けた指定都市の役割～文化芸術がもたらす都市の豊かさ～

全国20の政令指定都市で構成する指定都市市長会が開催するシンポジウム。今回は文化芸術をテーマに、プロデューサーの残間里江子氏による基調講演

と、指定都市市長によるパネルディスカッションを通して、文化芸術立国の実現に向けた圏域の中核都市として果たすべき指定都市の役割を考察する。

[日程] 11月12日(火)

[会場] イイノホール

[問い合わせ] 指定都市市長会シンポジウム事務局

Tel. 03-5733-4015

特集 アートプロジェクト

前号に続き、全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクトを紹介します。

※開催地の北から順に掲載。

☑は会場、☒は問い合わせ先です。

(☞)は地域創造助成事業

●青森県青森市

10月5日～12月1日

青森EARTH2019:いのち耕す場所—農業がひらくアートの未来

青森の大地に根差したアートの可能性を探求するシリーズ企画。今回のテーマは食糧生産の営みや社会の礎である「農業」。現代アーティストの作品を中心に近代の芸術家、青森の子どもたちの版画作品、農具や「農の思想家」安藤昌益らをジャンル横断的に展覧し、農業とのコラボレーションを通して現代アートの「いま」を見つめる。

☑青森県立美術館

☒青森EARTH2019実行委員会事務局

Tel. 017-783-3000

●千葉県松戸市 11月16日、17日

科学と芸術の丘 2019

クリエイターや芸術家による滞在制作など、クリエイティブなまちづくりを進めてきた松戸市が開催する、科学・芸術・自然をつなぐ国際フェスティバルの2回目。「Citizens of the Future」をテーマに展覧会やトークなどを開催する。参加作家の市原えつこと田所淳は、主会場である水戸藩主・徳川昭武の住まい「戸定邸」(国の重要指定文化財)

からのインスピレーションをもとに新作を発表。

☑戸定邸、松雲亭、戸定が丘歴史公園 ☒松戸市文化観光国際課
Tel. 047-366-7327

●横浜市 9月20日～11月4日

黄金町バザール2019—ニュー・メナジェリー

かつて違法な特殊飲食店が軒を連ねていたまちをアートの力で再生するフェスティバル。12回目となる今回は、まち中で展開されるアートだからこそ生まれる人と人、人とアートの関係に注目。8カ国15組のアーティストが滞在制作した作品をまちの各所に展示するほか、通年実施しているアーティスト・イン・レジデンスに関わる4つの企画から、黄金町で生まれるアートを紹介する。

☑京急線日ノ出町駅～黄金町駅間高架下スタジオ ほか
☒黄金町エリアマネジメントセンター
Tel. 045-261-5467

●神奈川県小田原市

11月23日～12月1日

おだわら城町アートプロジェクト 「記憶のノゾキミ」

小田原城下町の歴史的建造物や商店街の空き店舗を会場に、作品の展示やパフォーマンスを展開するアートプロジェクト。現代アートを通して地域社会に小さな変化をもたらすことを目的としている。今回は、公募などで選ばれた美術作家4組による展示・インスタレーションに加え、美術作品や景色と絡み合うダンスパフォーマンスも行われる。

☑小田原市中心市街地(オービックビルほか) ☒おだわら文化事業実行委員会(小田原市文化政策課)
Tel. 0465-33-1709

●長野県上田市

9月21日～12月22日

上田街中演劇祭2019

9月から12月にかけて街中で上演される演劇祭。今年は会場のひとつである元銭湯「竹乃湯」で上演する劇団を公募するなど、さらに地域で活動する劇団の応援に力を入れ

▼—今月の情報 (特集 アートプロジェクト)

た。アーティスト・イン・レジデンスは、昨年より多く2つの作品を上演する。今年も招聘劇団と地元劇団を同じ土俵で紹介し、地元の演劇シーンの活性化を図る。

☉犀の角、竹乃湯、別所神社神楽殿 ☉一般社団法人シアター&アートうえだ Tel. 0268-71-5221

●静岡県島田市 11月1日～4日

第5回ささま国際陶芸祭

2011年、「小さな村から世界へ発信」をテーマに始まり、年々注目を集める陶芸祭。招待作家によるデモンストレーションなどを間近で学べる前半と、笹間地域の民家や廃校での作品展示や体験イベントを行う後半で構成され、21カ国68名の作家が参加する。島田市博物館別館では、これまで寄贈された作品の展示会を同時開催するなど、陶芸を通じた地域の交流が行われる。☉島田市山村都市交流センターさまほか ☉ささま国際陶芸祭実行委員会(山村都市交流センターさま内) Tel. 0547-54-0661



カリン・ブッチュ・グラスィ(イタリア)と大村屋酒造のコラボレーション

●静岡県掛川市

10月24日～11月10日

原泉アートプロジェクト HARAIZUMI ART DAYS! ～泉とともに～

掛川市の北部、原野谷川の周りで泉とともに育まれてきた「原泉」地区を舞台に、2週間にわたり作品展示やパフォーマンスが行われる。アートを楽しみながら作品と深く対峙することで地域を感じてほしいという思いから、滞在制作による作

品が空き家や旧茶工場、山間など約10カ所に散りばめられ、すべてのアート作品を投げ銭形式で楽しめる。

☉旧掛川市JA原泉支所ほか

☉原泉アートプロジェクト

haraizumiart@gmail.com



水戸部春菜 滞在制作の様子。使われなくなった茶工場で展示予定

●兵庫県川西市、猪名川町、大阪府豊能町、能勢町

10月26日～11月24日

のせでんアートライン2019 「避難訓練」

兵庫県と大阪府をまたぐ能勢電鉄(のせでん)の沿線地域とアーティストが一体となつてつくる2年に一度の芸術祭。今回のテーマは、日常のさまざまな困難や災難と向き合う中で、進むべき経路をアートを通して指し示すことを意味した「避難訓練」。アーティストが沿線地域に着想を得て制作した作品を展示する。会期中は公募で選ばれた地域の団体も沿線でさまざまな活動を展開する。

☉川西能勢口駅・能勢電鉄妙見口駅～能勢妙見山の一带ほか ☉のせでんアートライン妙見の森実行委員会 info@noseden-artline.com

●神戸市 9月13日～11月24日

六甲ミーツ・アート 芸術散歩2019

六甲山を舞台に展示される現代アート作品をピクニック気分で行きつけつつ楽しめる展覧会。2010年の初開催から今年で10回目となる。ドロイング作品を展示する俳優の浅野忠信やイラストレーター・宇野亜喜良、現代美術家・榎忠をはじめ過去最多の42組が出展するほか、

神戸三宮・新神戸からの直行バスを運行し、ガイド付きで作品を巡るオフィシャルツアーを初開催。

☉六甲ガーデンテラス、六甲オルゴールミュージアム、六甲有馬ロープウェー(六甲山頂駅)ほか ☉六甲ミーツ・アート 芸術散歩2019事務局 Tel. 078-891-0048

●奈良県御所市 11月2日～10日

WSMA(ワズマ)～REBIRTH～

歴史ある木道家屋などを利用して、毎年行われているアーティスト・イン・レジデンス形式のイベント。国内外で活躍する現代アーティストを招聘し、作品制作を通して地元住民との交流を行っている。今年は「REBIRTH」をテーマに、3会場で普段見ることのないアーティストの制作現場を見て回ることができる。

☉岸本邸元酒蔵、青果市場跡、西川邸など御所市役所近辺 ☉アーティストインレジデンス開催実行委員会(御所市まちづくり推進課) Tel. 0745-62-3001

●鳥取県鳥取市

10月24日～11月17日

BeSeTo演劇祭26+鳥の演劇祭12

BeSeTo演劇祭は、演劇によって日本・中国・韓国の人たちの心を繋ぐことを目的に各国持ち回りで開催している国際演劇祭。日本開催の今回は、国内外のハイレベルでユニークな舞台作品や地域コミュニティの作品を上演している「鳥の演劇祭」との一体開催。5つの会場でさまざまな国の作品が上演されるほか、子どもも楽しめるプログラムや、カフェやショップ、地域体験メニューなども充実。

☉鳥の劇場ほか鳥取市鹿野町内各所 ☉「BeSeTo演劇祭26+鳥の演劇祭12」問合せ窓口(鳥の劇場内) Tel. 0857-84-3612

●岡山市 9月27日～11月24日

岡山芸術交流2019

3年に一度開催される国際現代美術展。今年フランス人作家のピエール・ユイグをアーティストックディレクターとして迎え、岡山城・岡

山後楽園エリアの歴史文化施設を会場に、9カ国18組の作家による約40点を展示。AIや科学技術を取り入れた作品も多数展示する。徒歩で回遊可能なコンパクトな会場配置で、まち歩きも楽しめる。

☉旧内山下小学校、岡山市立オリエント美術館、岡山城、林原美術館ほか ☉岡山芸術交流実行委員会 Tel. 086-221-0033

●高知県いの町

11月12日～12月1日

イノビエンナーレ(令)

いの町の新たな価値を見出す場やコミュニティになることを目指す、アートイベント。古民家や空き家などを活用した作品展示、パフォーマンスのほか、いの町紙の博物館では「夜の紙博」も開催。また今年、地域資源による観光とアートの相乗効果を期待し、根本神社・秋の大祭でオブジェクト展示も行う。☉いの町紙の博物館、いの町商店街周辺の古民家、空き家、倉庫など約10会場 ☉イノビ実行委員会 Tel. 090-4336-7138

●高知県黒潮町 11月15日～18日

第25回潮風のキルト展

「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」をコンセプトに、ありのままの風景を作品とする「砂浜美術館」の秋の企画展。砂浜沿いの松原に、公募のキルト作品を「ひらひら」と展示するほか、審査員Patch-Work-Lifeと同館インスタグラムのコラボ展、小さなお茶会や琴の演奏会も。風、光、らっきょう畑の花など、一期一会な自然の作品も楽しめる。

☉砂浜美術館(入野松原) ☉NPO砂浜美術館事務局 Tel. 0880-43-4915



©砂浜美術館

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

大阪府河内長野市

ラブリーホール
奥河内音絵巻2019 vol.5
「水とじいちゃん
—流れるように生きてきた—」



幻想的な「水とじいちゃん」の舞台
写真提供：河内長野市文化振興財団
©関一也

●奥河内音絵巻2019 vol.5「水とじいちゃん—流れるように生きてきた—」
[会期]2019年9月15日
[芸術監督・作曲・脚本・出演]サキタハチメ
[絵本作家]いぬんこ
[光の切り絵]酒井敦美
[出演]山鳴らすAll Stars、ラブリーホール(ミュージカルスクール、伝統音楽教室&アイドル教室、のこぎり音楽教室&チームのこぎり)、オッカサン&オカンテレ愛好会、和太鼓響、蟹井神社祇園囃子保存会
[主催](公財)河内長野市文化振興財団

●ラブリーホール(河内長野市立文化会館)1992年4月開館。指定管理者は河内長野市文化振興財団。大ホール(1,308席)、小ホール(464席)、ギャラリー(180m²)、リハーサルルーム(135m²)、レッスンルーム(30m²)、和室(30畳、12畳各1室)、会議室(30名部屋各2室)など。

*1 奥河内河内長野市を中心とする大阪南東部の金剛山地、和泉山脈一帯を指す。自然の緑豊かなエリア。

*2 地元木材によるオリジナル楽器フィンランドの民族楽器カンテレをモチーフにした楽器をつくり、三弦を「オッカサン(奥河内三弦カンテレ)」、五弦を「オカンテレ(奥河内五弦カンテレ)」と命名。このほか、かんなくずを固めたオカリナに似た笛「オカナ」、丸太マリンバなどがある。

市民とアーティストが共に楽しみながら奥河内(*1)の魅力を描くステージ「奥河内音絵巻」。“光と音と絵”をテーマとしたシリーズの5作目となる『水とじいちゃん—流れるように生きてきた—』が、9月15日にラブリーホール(河内長野市立文化会館)で披露された。ミュージカルソー(のこぎり)奏者・作曲家のサキタハチメが芸術監督を務め、プロのクリエイターとホールの音楽教室などで活動する市民奏者・パフォーマー約70人が参加。毎回趣向を変え、今回は美しい水の風景と町のじいちゃんを題材に企画。絵本作家のいぬんこによる4人のじいちゃんキャラクターが舞台上に大きく映し出されるなか、奥河内でサンプリングした水の音や地元木材によるオリジナル楽器(*2)、のこぎり、和太鼓などがチャンプルーなサウンドを奏で、ミュージカルスクールの子どもたちや地元の祇園囃子、蟹井神社の高提灯行列まで参加してパフォーマンス。そのすべてを包み込むように酒井敦美による満開の桜などの「光の切り絵」が劇場全体に映し出され、万華鏡の世界に迷い込んだような世界が展開していた。

ラブリーホールは、近隣ホールとの差別化を図るために展開してきたシンボル事業「河内長野マイタウンオペラ」(1992年～)と「かわちながの世界民族音楽祭(世民)」(94年～)で知られる。99年には市民ミュージカルをスタート。2007年からは教室事業に力を入れ、子どもたちのミュージカルスクール、のこぎり音楽教室、フィドル教室、伝統音楽教室、ゴスペルクワイアを通年開講。「奥河内音絵巻」は、それまで海外アーティストの招聘中心だった世民を見直し、2015年から取り組んでいるプロジェクトだ。

河内長野市文化振興財団の相輪研二事業グループリーダーは、「09年から世民の企画運営に市民が参画して見直しを進めていました。出演者でもあり、市民ミュージカルへの楽曲提供、のこぎり音楽教室などに関わっていただいていたサキタさんの提案で、海外から招くというこれまでのベクトルを逆にして、「奥河内のサウンドやビートをもっとみんなで面白がって、世界に発信していこう」と方針転換しました」と振り返る。

18年まではマルシェやワークショップもあるスタイルで事業を実施。「静寂と木への祈り」と題した第1回では、切り似顔絵師のチャンキー松本を招き、市の面積の7割を占める森林のシンボルとして舞台美術や衣裳に地元木材のかんなくずを活用し、市民に集めてもらったコオロギなどの鳴く虫約3,000匹と共演!第2回では舞台美術に華道家の片桐功敦を招き、かんなくずの花を舞台や市民約130人の全身に飾ってパフォーマンスを披露。第3回では当初から取り組んでいる地元木材のオリジナル楽器を市民と共に大合奏。そして、今年の「LUCKY for YOU!」では「仏教とサーカス」と題し、酒井による巨大な龍を象った光の切り絵や花々を小ホールの360度に映し、サキタ率いるバンド「山鳴らすAll Stars」がサーカスや真言宗河内真和会の声明とも競演する体感型イベントを実現した。

市民奏者として毎年参加してきた渡辺一郎さんは、「今回は高提灯行列でしたが、サキタさんは地域密着度がとてつもなく、地元の我々が知らないことも取り入れ、毎回、新鮮な発見があります。ホームグラウンドのラブリーホールがあって、音楽の人生を楽しんでいます」と祭りを心から楽しんでいた。サキタは「この自然に出会って、いろんなアイデアで“山を鳴らしたい”と思いました。将来は本物の山を鳴らしたい!河内長野にはそういう僕のアイデアを面白がってくれる仲間がたくさんいるから、4年前、ここに引っ越しました」と笑う。

気心が知れているからできることだと思うが、全員での合同練習は3回だけと聞いて驚いた。相輪さんが「サキタさんの言葉を借りれば、奥河内音絵巻は“マッシュアップ”(複数の楽曲を編集してひとつの楽曲にする手法)な舞台なんです」と種明かしをしてくれたように、何度も演奏しているオリジナル曲、教室で練習している曲、奥河内の音や自然や人、民俗芸能など、あらゆるものが投入され、文字どおり光と音と絵で彩る舞台だった。サキタという才能があったればこそだが、これまでにない公立ホールの創作舞台の可能性を感じた。

(ライター・田中健夫)